

2018年3月23日

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

マットグロッソ州イノセンシア市
「イノセンシア養護学校マイクロバス整備計画」に係る
草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式について

在サンパウロ日本国総領事館

去る3月19日（月）午前9時30分より、「イノセンシア養護学校マイクロバス整備計画」に係るイノセンシア障がい者を支える親と友の会への我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式を行いました。式典には野口泰在サンパウロ日本国総領事、パウロ・ファリア・ピレス／イノセンシア障がい者を支える親と友の会理事長、ジョゼー・アルナウド・フェレイラ・デ・メロ／イノセンシア市長、エンヒケ・セザル・リラ・アルヴェス／イノセンシア市議会議長、安永信一／ノロエステ日伯文化協会連合会会長他約60人が出席しました。

会場：イノセンシア障がい者を支える親と友の会（APAE de Inocencia）

住所：Rua Jaime David, 846（MS）

CEP：79.580-000

電話：（67）3574-1609

来賓の挨拶：

野口泰総領事は、「イノセンシア障害者を支える親と友の会は、1998年に設立され、地域の障がいを持つ子ども達に対して教育及びセラピー等を行っている。このような意義深い活動を続けているパウロ・ファリア・ピレス理事長、マリア・アメリカ教育学ディレクター及び団体の全ての職員に敬意を表す。今回の協力は、通学用マイクロバスの整備に対し資金の供与を行うもの。草の根・人間の安全保障無償資金協力の目標は社会保障の推進及び社会福祉の向上でもある。この支援によるマイクロバスによって、団体の生徒たちの通学環境が改善し、福祉サービスがより広い範囲で活動できるようになることを祈っている」と挨拶しました。

パウロ・ファリア・ピレス理事長は、「日本国政府の協力を表するとともに、感謝の気持ちでいっぱいである。この度の資金協力によりマイクロバスを整備することで、生徒達の通学環境は大幅に改善されることになる。生徒達にとって、また団体の活動にとって大変意義深いものである。」と謝辞を述べました。

続いて、ジョゼー・アルナウド・フェレイラ・デ・メロ／イノセンシア市長及びエンヒケ・セザル・リラ・アルヴェス／イノセンシア市議会議長が挨拶を行い、いずれも本件協力を実施した日本政府に対する深い謝意を表しました。

供与式写真



(右からマリア・アメリカ教育学ディレクター、野口総領事、
パウロ・ファリア・ピレス理事長、岩嶋領事)



(供与式出席者)



(イノセンシア養護学校生徒)



総領事祝辞

○上記案件のプロフィール

案件名： 「イノセンシア養護学校マイクロバス整備計画」

被供与団体： 「イノセンシア障がい者を支える親と友の会」

プロジェクト実施地： マット・グロッソ・ド・スル州イノセンシア市

契約署名式日： 2017年3月17日

供与額： 224,344.73リアル

案件の概要： 「イノセンシア障がい者を支える親と友の会」は1998年に設立され、地域の障がいを持つ子ども達約30名に対して教育、社会福祉及びセラピー等の療育を行っています。

生徒の中には車椅子を必要とする重度の障がいを抱えている子もいますが、これまで団体が所有していたバンは車椅子昇降機を備えておらず、人力による昇降作業となるため転倒などの危険もありました。また、同バンは、老朽化が進み、故障も多く、シートベルトや安全面に必要な用具や車椅子専用のスペース等も整備されていませんでした。

今回の協力は、通学用マイクロバスの整備に対し支援を行うもので、草の根・人間の安全保障無償資金協力として、224,344.73リアルの資金を供与したものです。これにより、生徒が安全及び快適に通学することが可能になるほか、更に効果的な教育支援活動が行われることが期待されます。

供与品目： マイクロバス